

キャラクター名
イヴァン・ブラギンスキ

プレイヤー名

シンドローム	ノイマン		ワークス	政治家	カヴァー	国王
	ノイマン					
オプション		年齢	25	性別	男	
覚醒	憤怒	衝動	殺戮	初期侵食率	35 %	
出自		経験		邂逅		

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	29
肉体	0	0	1			1	行動値	9
感覚	0	0	1			1	(非装備時)	9
精神	6	0	1			7	戦闘移動	14
社会	2	1	0			3	全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃		4	RC			交渉		2
回避			知覚			意志		1	調達		1
運転:			芸術:			知識:		1	情報:裏社会		1
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
呪われし者の銃	射撃	4		9		
最果ての王(インペラートル)		0				侵蝕値12 シーン1回、セット①+② ダイス+3、攻撃力+28
王の微笑み(リツミエーリイ)	射撃	9r+4		15		侵蝕値7 メジャー③+⑤+⑥
王の気紛れ(アムビーツィヤ)	射撃	9r+4		15		侵蝕値10 シーンLV回、80↑メジャー③+④+⑤+⑥ 範囲攻撃

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
防弾防刃ジャケット		3			

所持品	
コネ: 情報屋	
コネ: 手配師	
呪われし者の銃	

合計装甲: 3 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	ダイス	消費
ギルベルト・パイルシュミット	P 信頼	N 嫉妬		
ナターリヤ・アルロフスカヤ	P 慈愛	N 悔悟		
	P	N		
アントニョ・フェルナンデス・カリエ	P 親近感	N 猜疑心		
キク・ホンダ	P 感服	N 猜疑心		
マシュー・ウィリアムズ	P 庇護	N 憐憫		
Dロイス: 超血統	P	N		

最大財産P: 8 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
戦術	3	6	セット	視界	シーン	自動	-	
効果:	対象がR中に行うメジャーのダイス+[LV]、対象「自分」不可							
常勝の天才	7	6	セット	視界	シーン	自動	ピュア	
効果:	シーン1回。対象のR中攻撃力+[LV×4]							
コントロールソール	1	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果:	組み合わせた判定を【精神】で行う <白兵><射撃>							
神機妙算	1	3	メジャー	-	範囲(選択)	-	80↑	
効果:	シーンLV回。メジャーアクションの対象を「範囲(選択)」に変える <シンドローム>							
零距离射撃	3	2	メジャー	至近	-	対決	-	
効果:	組み合わせたダイス+[LV]射撃攻撃(射程:至近) <射撃>							
バレットワルツ	2	3	メジャー	武器	-	対決	リミット	
効果:	《零距离射撃》と同時に使用。攻撃力+[LV×3] <射撃>							
理知の城壁	1	1	メジャーアクション	-	-	-	-	
効果:	組み合わせた判定を【精神】で行う <交渉>							
ドクタードリトル	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果:	あらゆる言語を使用可能							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

雪が世界を覆う国『フィニーク』を治める現国王。性格は極めて温厚で人懐こいが、その奥に潜めた怒りや殺戮本能を無理やり押さえつけて統治をしている。普段は自分が表には出ず、補佐官であるギルベルトを介している勅命を出すことが多い。感情が昂り暴走すると手当たり次第に殺戮を繰り返していたことから、付いた異名は『赦されざる教皇』。周囲にいる人物はイヴァンを恐れるが故に寄り付かなくなったが、自身の姉妹と補佐官であるギルベルトだけは傍に居続けた為に完全に心を開くのはその3人だけ。王位継承時に起こった事件に深く関与しているが、緘口令が敷かれていてその実態を知る者は殆どいない。誰よりも姉妹のことを大切に想うが故に無茶をし、従者を従え時に暴君と成る。彼が『覚醒』しているのか、それは誰にも、勿論自身にもわからない。